

中部接骨学会事務局便り

東日本大震災をはじめ、原発事故・ゲリラ豪雨・台風・円高… 暗い出来事が続く世の中において、国民に勇気と希望を与えた『なでしこジャパン』が国民栄誉賞を受賞したという新聞記事を、幾度も目の当たりにする今日この頃。喜ばしいことではあるがその反面、あくまでも個人の観念として語らせて頂ければ「好き勝手なことをしているアウトロー集団に、何でこの時期に…」とってしまったのも事実である。スポーツだけに脚光を浴びせることなく、芸術・文学・芸能など一途下向きに歩み、年輪を刻んで開花した人、着目されるべき人達はずっと大勢いるはずである。そして今、被災地の復興に取り組むも、環境が整備されずに地団太を踏んでいる人達、職を・生活を・家族を失った人達が、大勢いる中で『国民栄誉賞』を与えた政治家に疑問を抱く。また、大和撫子たる品格・言動とは思えず、浅い歴史・短い年月で『栄誉』が与えられた『なでしこジャパン』の各々の人生… これからの人生のほうが多く、それぞれが数年後にどんな立場で、どんな生活をしているのかがとても気になる。『スポーツ選手のなれの果て』にならなければ良いが… 『国民栄誉賞』の価値を下げたと感じるのは、私だけであろうか。個人が『なでしこジャパン』を思うように、『柔道整復・ほねつぎ』を国民各々はどのように思っているのだろうか。以下に最近聞いた話と、経験した症例を紹介する。

＝最近聞いた話＝

以下は県下有数の進学高校を卒業し、そして東京6大学を経た後、某有名企業のサラリーマンとなった者の発言である。

「接骨院の先生はみんな立派だと思っていた… 俺の同級生は中学校の時、柔道もやってなかったし、馬鹿でアホの高校行ったのに、なんであいつが接骨院の先生になれるの？」

「僕はネ、幼い時から怪我をすると接骨院へ、そしてひどい時は接骨院から紹介されて病院で入院。その病院で先生に巡り合った。大先生から下っ端の先生まで、みんなオーラがあった。顔はダメでも格好よかったヨ。」

「接骨院の先生って簡単にになれるの？ あいつ、ほんとに馬鹿だったんだよ！ 幻滅！」

私自身に大層な学歴は無い。しかし柔道整復業を修業し、今も『ほねつぎ』としてのプライドを持ち、日々の業務に努めている。柔道、あるいはスポーツをするために学校を選択した者は別として、学を修め、柔道整復師の本業を信用・理解し、来院して下さる支持者からもこんな発言が出始めている。

＝最近経験した症例＝

病院から肩関節脱臼の後療法依頼を受けた。その経過の一部を紹介する。

病院の初診は7月7日で、病院で脱臼徒手整復が行われた。受傷は7月2日で、実は受傷後7月3日から7月7日までの期間、某接骨院で加療していたとのこと。

…ということは、某接骨院では肩関節脱臼をそのまま放置していた!? 肩関節脱臼を見落とした!? 外見の観察や触診は行わなかったのか!?!? 患者さんは数日の間、その柔道整復師を信用し、教科書に掲載される『持続的脱臼痛』に耐え忍んでいたわけだ…。

これ以上の詳細は批判ともなり、また『明日は我が身』ということで省略する。良識ある会員の皆様は、それぞれ何を、どのように感じられるであろうか？

私が幼き頃、母親に連れて行かれた接骨院での一風景を思い出す。足関節に包帯を巻き終えた時の院長と院長夫人の会話…

院長夫人「今回はいつ来院して戴きましよう？」

院長先生「では、〇〇に来て頂いて下さい。それと、運動会の徒競走の練習は我慢してもらって下さい。」

院長夫人「はい承知いたしました。では、今日はおいくら頂きましょう？」

院長先生「そうですね、今日は〇〇ですか、〇〇円頂いて下さい。」

この院長先生と院長夫人との他人行儀で、堅苦しく感じられる会話を、怪我の痛みも、そして徒競走の練習も出来ない悲しさも忘れ、幼き私は背筋を伸ばし、緊張感を持って見つめていたことを鮮明に記憶している。その接骨院の玄関を出た所で、私は「あの先生とあの叔母さんは夫婦なの？」と母親に尋ねた。母親からの「そうだよ」という答えに「変な家族だなあ〜」と子供ながらに思った。その感覚は、普段の生活でもあんな言葉づかいのやりとりがなされるものと勝手な想像に発展し、接骨院の先生に尊敬と憧れの念を抱き『聖職』と捕え、その家族も聖職に相応しい生き方をしているものと認識した。今日に至るまで、私の中では『柔道整復師』は『聖職』として胸に刻み込まれている。しかし、あれから何十年も経った今、知識・技術のみならず、若い柔道整復師達の人間性を観察しても『聖職』からは程遠く、違う方向へと歩んでいると感じる。歯止めは利かないものか？我々は、ただ崩れ去るのを待つだけなのか？

現在、将来を担う若き柔道整復師諸君は、人に与えられたもの、自分が見たことだけを信ずるのみで、それを基にさらなる発展へ向け努力することに欠けるような気がする。本業の学術的知識・技術は勿論のこと、政治・経済・芸術・歴史・芸能など、ありとあらゆる事象に興味を持ち、多くの知識を養い、常に発想し、どんな人達からも尊敬されるような人間形成への努力が必要である。努力を惜しまず、許される範囲の中で精一杯を尽くすことが、柔道整復業界の発展に繋がるものと考え。

話は一転し、今年度 11 月に開催予定の『公益社団法人 日本柔道整復師会 第 43 回東海学会 愛知大会・第 93 回中部接骨学会』が開催される。午前の部は従来通りの会員研究発表が行われ、午後の部は新たな試みとして、一般人（今回は、①柔道指導者、②中日新聞掲載による応募者を対象）への聴講の場とする『一般公開セミナー』が行われる。著名な講師をお招きしてご講演を賜り、一般社会へ柔道整復師を少しでも理解して頂くとともに、家庭の医学としての知識を深めて頂くことを目的とするためのセミナーである。

学会は会員のためのものでもあるが、一般公開するにあたり、改めて柔道整復師自らが見つめ直さねばならない。情報発信する柔道整復師が、一部の不屈きな輩の出来事であるが本来の姿より逸脱し、不正行為に手を染めるようでは、全てが無意味となってしまう。柔道整復師だけに留まらず、世間一般に『先生』と呼ばれる人々は、きちんとした学歴・知識・人格で、きちんとした証（国家資格）を持ち備えた者こそが相応しい。柔道整復師は自らが医療末端を担う者としての厳格なる自覚を持ち、利己主義に陥ることなく、また目立つことなく襟を正そう。

中部接骨学会事務局
杉浦 光幸

【中部接骨学会会員数】

(平成 23 年 9 月 15 日現在)

- | | |
|-----------------|-------|
| ・本部会員 | 1,288 |
| ・(社)愛知県柔道整復師会会員 | 847 |
| ・(社)静岡県柔道整復師会会員 | 338 |
| ・(社)三重県柔道整復師会会員 | 176 |
| ・(社)岐阜県柔道整復師会会員 | 332 |

合計 2,981 名

※本部会員には学生会員 (325 名) も含まれています。